

水稻の早生, 良食味品種「つくしろまん」の特性

浜地勇次・和田卓也・大里久美¹⁾・川村富輝・今林惣一郎・西山 壽²⁾・吉野 稔³⁾・安長知子⁴⁾
 (福岡県農業総合試験場・¹⁾ 福岡県農政部・²⁾ 元福岡県農業総合試験場・³⁾ 朝倉農業改良普及センター・⁴⁾ 福岡農林事務所)

Yuji Hamachi, Takuya Wada, Kumi F. Oosato, Yoshiteru Kawamura,
 Souitirou Imabayashi, Hisashi Nishiyama, Minoru Yoshino and Tomoko Yasunaga :
 Characteristics of a new early-maturing rice cultivar "Tsukushiroman" with high palatability

福岡県では極早生の「夢つくし」と中生の「ヒノヒカリ」の良食味品種に作付けが集中する中で、作期の分散化を図るために早生の良食味品種が望まれてきた。そこで、この要望に応えた「つくしろまん」を育成した。

1. 来歴および育成経過

本品種は、1992年福岡県農業総合試験場において、極早生、良食味の「ちくし6号、後の夢つくし」を母、早生の「中部88号」を父として人工交配を行い、F₁とF₂を温室で、F₃を圃場で集団養成した。以降系統育種法により系統の選抜を行うとともに、固定を図った。1998年以降は「ちくし46号」の系統名で生産力検定試験、特性検定試験および奨励品種決定調査に供試し、2002年3月に品種登録出願、同年2月に福岡県の準奨励品種に採用した。

2. 栽培特性

第1表に「つくしろまん」の栽培特性を示した。出穂期および成熟期は、福岡県の主要品種である「夢つくし」と「ヒノヒカリ」の中間で、「日本晴」と同じ“早生の晩”に属する粳種である。「日本晴」と比較すると、稈長および穂長はやや短く、穂数は同程度の“偏穂数型”である。耐倒伏性および穂発芽性はともに“中”である。いもち病真性抵抗性遺伝子“Pii”を持つと推定され、圃場抵抗性は葉いもち、穂いもちともに“やや弱”で、白葉枯病も“やや弱”である。収量性は同程度である。心白米の発生はやや多いが、乳白米の発生は同程度で、玄米のみかけの品質は同程度の“中の中”である。玄米千粒重はやや軽い。

3. 食味および理化学的特性

第2表に示すように、炊飯米に光沢があり、粘りが強いのが特長で、食味総合評価は「コシヒカリ」や「ヒノヒカリ」より優れる“上の上”で、1年間を通して安定している。

精米の理化学的特性を「ヒノヒカリ」と比較すると、アミロース含有率が約1.5%、タンパク質含有率は約0.2%低い。テクスチャー特性のH/H比とH/A₃比はやや小さく、アミログラム特性の最高粘度とブレイクダウンはやや大きく、いずれの特性ともに優れる(第3表)。玄米で1年間室温貯蔵後の精米の脂肪酸度はやや少なく、テクスチャー特性のH/H比とH/A₃比はやや小さい(データ省略)。

以上の特性から、本品種の導入によって水稻の熟期別の適正化が図られるとともに、県産米の販路拡大が期待される。また、本品種は食味からみた貯蔵性や精米の理化学的特性が優れていることから、良食味品種育成のための交配母本としても有用であると考えられる。

第1表 栽培特性¹⁾

形質	品 種 名		
	つくしろまん	日本晴	ヒノヒカリ
出穂期(月.日)	8.16	8.17	8.23
成熟期(月.日)	9.24	9.24	10.4
稈長(cm)	80	82	86
穂数(本/m ²)	353	339	353
耐倒伏性	中	やや弱	やや弱
穂発芽性	中	やや易	難
葉いもち ²⁾	やや弱	中	やや弱
穂いもち ²⁾	やや弱	中	やや弱
白葉枯病 ²⁾	やや弱	中	やや弱
精玄米重(kg/a) ⁴⁾	56.7	56.0	58.0
検査等級 ³⁾	3.2	3.1	3.1

注) 1) 1996年~2001年。移植期: 6月8日~13日。
 2) 圃場抵抗性。
 3) 検査等級: 1(1等上)~9(3等下)。
 4) 精玄米重は「日本晴」にもみ枯細菌病が多発した1998年の値を除いた。

第2表 食味評価¹⁾

品種名	新米				古米 ²⁾ 総合
	総合	外観	味	粘り	
つくしろまん	0.44	0.28	0.18	0.56	0.56
日本晴	-1.08	-0.60	-0.75	-0.96	-1.26
ヒノヒカリ	-0.20	0.07	-0.10	-0.17	-0.23

注) 1) 1997年~2001年。同条件の「コシヒカリ」を基準(0)。
 2) 1年間室温貯蔵後に試験を実施。

第3表 精米の理化学的特性¹⁾

品種名	アミロース		アミログラム特性 ³⁾		テクスチャー特性 ⁴⁾	
	含有率 ²⁾ (%)	含有率 ²⁾ (%)	最高粘度 (RVU)	ブレイクダウン (RVU)	H/H	H/A ₃
つくしろまん	15.2	7.32	552	309	11.5	17.2
日本晴	18.0	7.80	510	277	19.3	35.2
ヒノヒカリ	16.8	7.52	513	285	13.0	20.8
コシヒカリ	16.1	7.48	572	345	13.1	18.3

注) 1) 1997年~2000年。
 2) オートアナライザーII型(テクニコン社製)で測定。
 3) ラビッドビスコアアナライザー(Newport Scientific社製)で測定。
 4) テクスチュロメーター(全研社製)で測定。